



TAC管理会計論-テキストチェックゼミ(安達)

第3回 製造間接費の配賦, 部門別計算

2022年12月28日(水)19:00～

製造間接費の配賦計算について

23年目標テキスト P 43～ P 59

製造間接費の配賦計算について

Q.

製造間接費とは何ですか。費目別計算と製造間接費の配賦はどのように連携していますか。

製造間接費の配賦計算について

Q.

製造間接費の配賦計算の原則的な処理はどのような処理ですか？また、容認処理は何でしょうか。

Q.

製造間接費の配賦について、原価計算基準上、総括配賦ではなく、部門別配賦が原則とされているのはなぜですか。

製造間接費の配賦計算について

Q.

製造間接費の配賦基準の要件を 2 つ挙げてください。

製造間接費の配賦計算について

Q.

製造間接費の配賦基準として、時間的要素を含む配賦基準の利用が望ましいといわれるのはなぜですか。

製造間接費の配賦計算について

Q.

予定配賦率の算定式を説明してください。

Q.

原価計算基準で定められている、予定配賦率算定の基礎となる期間は1か月ですか、1年ですか、3年ほどの中長期的な期間ですか。

製造間接費の配賦計算について

Q.

予定配賦率はどのタイミングで算定されますか。

Q.

実際配賦の欠点を端的に 2 つ答えただうえで、その後理由を述べてください。

Q.

予定配賦の利点を端的に 2 つ答えただうえで、その後理由を述べてください。

製造間接費の配賦計算について

Q.

実際原価計算において、製造間接費配賦差異は何と何に分解しますか。また、その際には何を媒介として分けますか。

製造間接費の配賦計算について

Q.

原価管理の観点からは、予算差異と操業度差異どちらを厳格に把握すべきですか。また、その理由は何ですか。

製造間接費の配賦計算について

Q.
基準操業度の種類を 4 つ挙げてください。

Q.

4つの基準操業度を2つのグループに分けるとしたらどのような分け方になりますか？

製造間接費の配賦計算について

Q.
原価計算基準において原則とされている操業度は何ですか。

Q

基準操業度として、理論的生産能力が選択されることが少ない理由を説明してください。

Q.

基準操業度を变化させることによって変わる要素は何ですか（公式法変動予算を前提とします）。

Q.

基準操業度を変化させることによって変わる要素は何ですか（固定予算を前提とします）。

Q.

実際の生産能力、平均操業度、期待実際操業度の各々について、操業度差異の内容と理論的処理を理由を含めて説明してください。

製造間接費の配賦計算について

Q.
“ふどうひ”と漢字で書いてください。

Q.

製造間接費予算を固定予算とするか、変動予算にするかによって操業度差異の金額は異なりますか。

Q.

製造間接費予算を固定予算から公式法変動予算に代えると何が変化しますか。

Q.
固定予算と変動予算は“何”が固定で“何”が変動なの
ですか？

製造間接費の配賦計算について

Q.
固定予算の欠点は何ですか？

Q.

固定予算を用いても問題がない場合はどのような場合になりますか？

製造間接費の配賦計算について

Q.

以下の解答が正しければ○といい、誤っていれば、正しく訂正してください。

問：固定予算を採用していても固定予算の欠点が生じない場合を答えよ。

解答：

- ①実際操業度と基準操業度がほぼ等しい場合
- ②固定製造間接費が多い場合

製造間接費の配賦計算について

Q.
変動予算の利点は何ですか。

Q.

製造間接費予算が変動費と固定費に別れていない場合、差異分析の計算を行う上で気が付かなければいけないことは何でしょうか？

製造間接費の配賦計算について

Q.

予算差異は変動費と固定費のどちらから出ますか？

Q.

製造間接費の差異分析を原価管理に役立たせるためには、どのような点に注意すべきでしょうか。

Q. 2019年論文式試験第1問－問題1より

問 2 我が国の「原価計算基準」33(2)では「(製造)間接費は、原則として予定配賦率をもって各製造指図書に配賦する」と規定されている。当工場でも、製造間接費を部門別予定配賦率によって各製造指図書に配賦している。製造間接費を予定配賦することによって、どのようなメリットが得られるか。期待されるメリットを2点答えなさい。

Q. 2019年論文式試験第1問－問題1より

問 3 総就業時間と直接作業時間との時間差は、どのような時間消費によって生じているか。考えられる原因を二つ解答しなさい。

製造間接費の配賦計算について

Q. 2019年論文式試験第1問－問題1より

問5について、どのような問題だと思いますか。＊＊の部分推測して答えてみてください。

問 4 各製造部門の製造間接費配賦差異を計算し、固定予算を用いて、予算差異と操業度差異に分析しなさい。

問 5 上記の差異分析の結果、P工場の原価管理担当者から以下のような説明がなされた。下線部について、この説明の問題点を指摘しなさい。

「製造間接費差異分析の結果、当工場では、第1製造部門においても、第2製造部門においても、管理の重点ポイントである予算差異が大幅な＊＊差異を示しています。このことから、当工場では、原価管理能率は当初想定した水準より良好であると言えます。」しかしながら、懸念すべき点もあります。操業度差異が＊＊差異となっていることには注意が必要です。操業度差異が大幅な＊＊差異となっていることから、工場の従業員による操業度管理をいっそう徹底し、操業度差異を縮小する必要があるでしょう。」

部門別計算について

23年目標テキスト P 61～P 82

原価計算基準 15, 16, 17, 18, 34

部門別計算について

Q.
部門別計算とは何ですか。ざっくり説明してください。

Q.

なぜ、部門別計算をやるのですか。部門別計算の目的を2つ、端的に答えたいうえで、その後理由を含めて論理的に説明してください。

Q.

部門別計算は三段階の配賦計算のステップを踏んで行われます。それぞれの段階における計算をざっくり説明してください。

Q.

部門別計算の第二段階と第三段階に紐づく論点を説明してください。

部門別計算について

Q.

後輩に対して、部門別計算が出題された場合に意識することを伝えるとしたらこういったものを意識しろと伝えますか？

Q.

原価部門を設定するにあたり考慮すべきこと3つを端的に答えてください。

部門別計算について

Q.

製造部門と補助部門の違いは何ですか。

部門別計算について

Q.

下記の言葉について説明してください。

部門費

補助部門費

製造部門費

Q.

後輩から下記のように質問されたらどうやって答えますか？

「部門個別費は製造間接費にも関わらず、賦課という処理をするのは、なんでですか？」

Q.

部門個別費として計算するのと、部門共通費として計算するのでは、どちらが望ましいですか？理由も教えてください。

Q.

補助材料費を部門共通費として把握している会社が、
補助材料費を部門個別費として把握するためには、
どのような工夫が必要ですか。

Q.

補助部門費を製造部門に配賦しますが、これはなぜですか。

結論を2つ端的に答えただうえで、その後理由を含めて論理的に説明してください。

Q.
一般費とは何ですか？意義と具体例をあげてください。

Q.

一般費の処理方法及び、その根拠について教えてください。

また、一般費の計算は部門別計算の中のどの段階で行われるものになりますか？

部門別計算について

Q.

一部の補助部門費は、製造部門に配賦せず、直接製品へ配賦することができる（基準18(2)）という処理がありますが、この一部の補助部門費に通常、一般費は含まれますか。

また、この処理は部門別計算の中のどの段階で行われるものになりますか？

Q.

補助部門相互間の用役提供の事実を考慮している順に3つの補助部門費の配賦方法を教えてください。

Q.

階梯式配賦法には2つの計算パターンがありますが、それはどのようなものですか。

Q.

変動費と固定費それぞれの性質に基づき、適切な配賦基準を教えてください。

Q.

補助部門費を単一基準配賦法で実際配賦する場合の、
原価管理上の問題点を2つ答えてください。

Q.

補助部門費を単一基準配賦法で予定配賦する場合の、
原価管理上の問題点を教えてください。

Q.
補助部門における操業度差異の発生原因は何ですか？

Q.

補助部門費の配賦方法として、最も有用な方法はどの組み合わせですか。

Q.

補助部門費を単一基準配賦法で実際配賦をした場合の欠点（＊参照）は2つのアプローチで解消できますが、その方法の組み合わせは何ですか。なぜ欠点が解消できるのかを含めて説明してください。

＊特定の用役消費部門に対する実際配賦額は、他の用役消費部門における補助部門用役消費の多少によって左右されてしまうため、問題がある。

Q.

複数基準・予定配賦を用いた場合に、補助部門において操業度差異が認識されないのはなぜですか。

Q.

補助部門費を予定配賦する場合、補助部門費配賦差異はどこの勘定から生じますか。

Q.

テキスト第Ⅰ部 第4章 第3節のタイトルは“製造部門費の予定配賦”となっています。なぜ実際配賦については言及されていないと思いますか。

Q.

製造部門費を予定配賦する場合の期首から期末までの流れを時系列に沿って説明してください。

部門別計算について

Q.

補助部門費を実際配賦している場合、配賦差異は勘定のどこに生じますか。

※原則的な処理で製造間接費の配賦を行っているものとする。

Q.

補助部門費を予定配賦している場合、配賦差異は勘定のどこに生じますか。

※原則的な処理で製造間接費の配賦を行っているものとする。

Q.

補助部門費を予定配賦している場合、配賦差異は勘定のどこに生じますか。

※原則的な処理で製造間接費の配賦を行っているものとする。

部門別計算について

Q. 2019年第Ⅱ回短答式試験より
どのような資料があると思われますか。

問題 4 当工場には、製造部門として第1製造部門と第2製造部門があり、補助部門としては工場事務部門と動力部門がある。製造間接費の計算においては、補助部門費を製造部門に階梯式配賦法を用いて配賦した上で、製造部門費を製品に予定(正常)配賦している。

次の〔資料〕に基づき、製造部門の配賦差異に関する記述について最も適切なものの番号を一つ選びなさい。なお、計算過程で端数が生じる場合、計算途中では四捨五入せず、最終数値の円未満を四捨五入すること。(7点)

1. 第1製造部門の配賦差異は、1,253,431円(有利差異)である。
2. 第1製造部門の配賦差異は、1,253,431円(不利差異)である。
3. 第2製造部門の配賦差異は、1,502,950円(不利差異)である。
4. 第1製造部門と第2製造部門の配賦差異の合計額は、250,650円(有利差異)である。
5. 第1製造部門と第2製造部門の配賦差異の合計額は、250,650円(不利差異)である。

おまけ

Q.

あなたは今アクセス答練の復習をしていますとします。このような問題とそれに対する解答があった場合、どのように復習すべきだと思いますか。

問：本問において最も合理的と考えられる部門別配賦の方法は何か。（21目標アクセス②）

解答：
大型設備による機械作業が中心の加工部門は、加工部門の機械稼働時間を配賦基準として、手作業が中心の組立部門は、組立部門の直接作業時間を配賦基準として配賦する方法である。

おまけ

解答：

〈大型設備による機械作業が中心の加工部門〉は、
“加工部門の機械稼働時間を”
配賦基準として、

〈手作業が中心の組立部門〉は、
“組立部門の直接作業時間を”
配賦基準として

配賦する方法である。

〈〉 ...問題文からの引用

”” ...どこの何を

配賦基準として...これが抜けると専門用語的におかしいため必要な言葉

配賦する方法である...問いに答える意識

おまけ

先ほどのスライドのように、答案の書き方として注意すべき点はどこなのかを分析します。

記述解答を作るうえで配点が振られると考えられる要素に分解する意識です。

このように配点が振られるポイントに分解して抑えれば、過不足なく解答できるため、わかっているのに点が来ないという状況を防ぐことができます。解答読んで、理解できてわかるのに点が来ていないのは答え方に問題があると疑ってみてください。

くれぐれも答練の解答を暗記しないでくださいね。

また、このような問題においてヒントとなる情報は、必ず問題のどこかに散りばめられているので探しましょう。経験上、資料の頭にさらっと書いてあることが多いです。